

豊彦の精神普及に尽くす

関係者ら 「大きな存在が消えた」

孫の賀川督明さん死去



神戸生まれの社会運動家賀川豊彦(1888〜1960年)の孫で、賀川記念館(中央区吾妻通5)館長の賀川督明さん(山梨県都留市)が17日、闘病の末、61歳で他界した。グラフィックデザイナーとして活躍する一方、弱者救済に奔走した祖父の精神の普及に尽力。兵庫県内の関係者は早い死を悼んだ。

(藤村有希子)

豊彦は神戸のスラム 議や、コープこうべの った。
 で貧困救済活動をし、 前身となる「神戸購買 督明さんは2010
 体験を基にした小説 組合」などの設立に力 年、同館館長に就任。
 「死線を越えて」がベ を注ぎ、ノーベル文学 館内ミュージアムの構
 ストセララーに。労働争 賞、平和賞の候補にな 成、デザインを考えた

祖父、賀川豊彦の著書の英訳本を受け取る督明さん(左)。賀川記念館訪問はこれが最後になった。2014年7月31日、中央区吾妻通5

ほか、耳下腺がんと闘いながら講演で全国を精力的に巡った。

今年7月末、豊彦の著書「宇宙の目的」を米国の研究家が英訳し、同館へ寄贈した際も、督明さんは病を押して駆け付け「この上ない喜び」と感謝した。

同館参事の西義人さ

ん(71)神戸市東灘区は「豊彦の芸術性を受け継ぎ、信念を貫く人だった。病に負けず行動する精神力は、豊彦に似ていた。大きな存在が消えた。若すぎると惜しむ。

市民活動を通じ、督明さんと知り合った神戸市生活情報センター所長の西谷寛さん(58)「明石市は「環境保護や東北の被災地支援、海外の戦災孤児救済まで、多くの課題を広い視野で考えていた。人として大きく温かく、強くて優しい。天空から皆さんを見守って」と語った。

お別れ会は22日午後3時から、出棺式は23日午後1時から、いずれも東京都世田谷区上北沢3の8の19、賀川豊彦記念松沢資料館・礼拝堂で。

追想